

令和4年11月1日

各位

山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ(11月号)



1

2

3

4



霜月 晩秋の野草園 さあ どんな風景を切り取ろうか

- 1 吉林の庭のヤマモミジの黄葉 建物の柱の赤とモミジの黄 池には鯉が泳ぐ
- 2 野草の丘と青空 アカマツの緑 ヤマモミジの紅葉 バックのコナラの褐葉
- 3 カエデの林の落葉 色々な種類のカエデの仲間 モミジの葉の絨毯
- 4 ログハウス前のエノキの黄葉 緑色濃かったエノキ(榎)の葉が黄葉し落葉

霜月の野草園、鮮やかな紅葉の季節から、次第にモノクロームの世界へと変化する季節です。

木々の葉が紅葉、黄葉、褐葉に変化し、緑一色だった世界から鮮やかな様々な色の世界へと移り変わっていきます。やがて、その鮮やかな葉も落葉し、一面褐色の葉に覆われます。一足一足歩くたびにカサッカサッカサッと音がし、夏にはわからなかった自分の歩く音が聞こえます。気温が下がり、雪の到来とともに園内はモノクロームの世界へ。

数か月間の冬をじっと耐え来年の春を待つ植物の姿を、お天気の良い日に見てみませんか。美しい花の季節だけでなく、冬を耐える植物の姿を見ても面白いです。小春日を待ち、野草園に足を運んでみましょう。そして、素敵な風景を切り取ってみましょう。

11月～3月の予定

◆野草園は SUKSK ポイント対象施設

- 期 間 野草園開園期間 4/1(金)～11/30(水)
- 内 容 専用のスマホアプリで二次元コードを読み取るかポイントシールを受け取ることで、1回の来園で500ポイント付与(1日1回まで)
《詳細は「山形市 健康ポイント スクスク」で検索》

◆ガイドウォーキング

- 実施日 毎週日曜日・祝日 1日2回実施
- 時 間 ① 午前10:30～午前11:30
② 午後 1:30～午後2:30
- 費 用 参加費無料 《ただし入園料300円(高校生以下無料)》

◆バードウォッチング

- 日 時 11/5(土) 午前9:00～11:00
- 講 師 日本野鳥の会山形県支部 嵐田稔氏 細谷千鶴子氏
- 内 容 園内で野鳥の観察
- 対 象 先着20人
- 参加費 資料代・入園料込400円(高校生以下100円)
- 申込み 10/15(木)より 電話で野草園まで TEL023-634-4120



《第29回 野草園の魅力を探る写真コンテスト入賞作品展》

- 期 間 10/16(日)～11/23(水・祝) 午前9:00～午後4:30
- 内 容 審査の結果入賞した「一般の部」・「小中学生の部」の作品を展示
- 入園料 300円(高校生以下無料)

◆カフェ「やまぼうし」の営業は10月で終了いたしました

◆冬季休園 12/1～3/31 (ただし3月の最終土曜・日曜はプレオープン致します)

◆春の開園日までの予定

◆四季観察会④(冬芽の観察)

- 日 時 2/17(金) 午前9:30～正午
- 内 容 樹木の冬芽の観察を中心に

◆四季観察会⑤(早春の植物)

- 日 時 3/16(木) 午前9:30～正午
- 内 容 早春の植物の観察を中心に

※四季観察会の申込等については、その時期になったら山形市広報誌又はホームページをご覧ください。

◆キッズスノーパーク(そり滑り)

- 2月下旬予定 (コロナの感染状況、雪の状況によって実施できない場合もあります)
- 詳細はその時期になったら山形市広報誌又はホームページをご覧ください。

◆野草園写真展

- 日 時 3/13(月)～17(金)
- 場 所 山形市役所1階エントランスホール

◆プレオープン

- 期 日 正式な開園に先駆け 3/25(土)、26(日)
- 時 間 9:00～16:30
- 内 容 早春に咲き始める植物の様子を見にいらしてください
- その他 両日ガイドウォーキングも行います

●●● 11月に見られる主な植物・紅葉・風景 ●●●



台湾ホトトギス(ユリ科)

沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30～50cmになります。和名は、斑点が入る花を鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く、いろいろなところで栽培されています。



ヤナギバヒマワリ(キク科)

別名はゴールデンピラミッド、北アメリカのネブラスカからテキサス州にいたる地域に分布しています。茎は直立して無毛、多数の細い葉を互生します。花は、たくさんの黄色の舌状花と茶色の筒状花からなっています。名前は、花がヒマワリに似て葉が柳の葉のように見えることに由来します。



キチジョウソウ(キジカクシ科)

関東から九州にかけての暖地の林内に生える常緑の多年草です。根生する葉は長さ10～30cm、花茎は10cm程です。吉祥草という縁起のいい名前は、吉事があると開花するという中国の言い伝えからきているようです。野草園では一番遅く開花する草本の花です。



シュウガツザクラ (バラ科)

コヒガンザクラの園芸品種で、春（4月）と秋（10～11月）の2回開花します。花は淡紅白色で八重咲きです。名前は「十月桜」で10月頃に開花することに由来します。春に比べ秋に咲く花はやや小さいようです。なお、コヒガンザクラはエドヒガンとマメザクラの交雑種です。



マルバノキ(マンサク科)

関西や四国の山地の谷間などに生える落葉低木です。葉は互生し、卵円形または円形で基部は心形です。秋には美しく紅葉します。葉のわきのごく短い柄の先に、暗紅紫色の花を2個背中合わせに開きます。花弁は5枚あり、星形に平開します。マルバノキはその葉が丸いことに由来し、別名ベニマンサクはその花が赤色であることにもとづく名前です。



キタマムシグサの果実 (サトイモ科)

真っ赤な、まるでトウモロコシの様な形の果実です。少々気味が悪いほどの外見と赤色で毒々しい印象です。初夏には、緑色の蛇が鎌首を持ち上げたような形の花を咲かせていました。マムシグサは全草に毒性があります。特に球根の毒性が強く、汁が皮膚に付くと炎症を起こします。誤って食べると死に至ることもあります。



クサギの果実(シソ科)

日当たりの良い山野の林縁に生える落葉の小高木で、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をつけます。まるで花のような果実です。花も果実も綺麗なのですが、名前は「臭木」です。葉に臭気があることが名前の由来です。



ムラサキシキブの果実 (シソ科)

山野の林内や林縁に生える落葉低木です。葉は対生で、形は長楕円形、先が尾状にとがり基部は狭いくさび形です。夏に淡紅色の小さい花をたくさんつけます。花も美しいですが、果実もまた、紫色でとても美しく見えます。果実は、葉が落ちた後も枝に長く残ります。



ツルリンドウ (リンドウ科) の果実

山地の木陰などに生えるつる性の多年草です。草木にからんで長さ 40~80cm になった細長い茎の葉腋に、ラッパ型の花を付けます。花冠が淡紫色で先は 5 裂し、花冠の長さは 3 cm 程です。対生する卵状披針形の葉は有柄で、葉脈が縦に走るように見えるのが特徴です。果実は液果で、残存する花冠の上に突き出し濃い紅紫色に熟します。



ツルウメモドキの果実(ニシキギ科)

日本を含め、東アジア一帯に自生する落葉つる性の木です。初夏に伸びた枝先に黄緑色の花をたくさん付けますが、秋は淡黄色に熟した果実が付いています。それが3つに裂開し、その中から赤い仮種皮に包まれた種子が現れます。その姿がきれいなので、生け花の材料によく使われます。



ナツハゼの果実(ツツジ科)

高さ 1~3m の落葉低木で、葉は互生、枝先に長さ 4~5mm の鐘形の花を付けます。花弁は浅く 5 裂し、裂片は少し反り返ります。黒く熟した果実は直径 4~6mm の球形の液果で、表面は光沢があり甘酸っぱく食べられます。北海道~九州の山地に分布します。



サンシュユの果実 (ミズキ科)

中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が展開する前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので「春黄金花」と言われます。秋は果実が赤く熟すので「秋珊瑚」という別名があります。果肉を乾燥したものを強壯強精などの薬用に、果実を果実酒に利用します。



マユミの果実 (ニシキギ科)

普通は 3~5m 程の落葉小高木ですが、稀に 10m 程にもなるものもあるようです。春から初夏にかけて緑白色の小さな花を付けます。秋には 1 cm 程の大きさの倒三角形の蒴果を付け、10 月頃になると 4 裂した中から橙赤色の仮種皮に包まれた種子が見えるようになります。枝がよくしなり、弓を作るのに適していたことが名前の由来となっています。



アブラツツジ（ツツジ科）の紅葉

山地に生え、よく枝分かれする落葉低木です。葉は枝先に輪生状に集まってつき、倒卵形です。6月頃枝先に淡緑色の花を総状に吊り下げます。ドウダンツツジの仲間は鮮やかな赤色に紅葉しますが、そのひとつが本種です。葉の裏に光沢があり、油を塗ったように見えることが名前の由来です。



ヤマモミジ（ムクロジ科）の紅葉

北海道や日本海側に多い落葉小高木です。葉は対生で、掌状に深く5～9裂し、縁は重鋸歯になっています。園内で最も多いカエデです。紅葉は葉が赤くなるもの、黄色くなるもの様々あり、変異の多い樹木です。



メクスリノキ（ムクロジ科）の紅葉

高さ10mにもなる落葉高木です。樹皮を煎じて洗眼に用いたのがメクスリノキと呼ばれています。対生する葉は三出複葉で、小葉は5～10cmの長楕円形です。春、枝先に付く白色花はあまり目立ちませんが、秋は見事に紅葉します。よく見ると葉柄などに細かい毛が密生します。



ニシキギ（ニシキギ科）の紅葉

山野の林縁に生える高さ1～3mの落葉低木で、枝に薄板状のコルク質の翼が矢羽根のように張り出すのが特徴です。葉は、マユミやツリバナよりも小さいようです。葉腋に淡黄緑色で小さい目立たない花を数個つけます。美しい紅葉を錦に例えたことが、名前の由来です。紅葉がきれいなので生け垣などに使われます。



アカシデ（カバノキ科）の紅葉

山地や平地に生える落葉高木です。初夏に開花し、果穂は長い柄で垂れ下がり疎らに苞が付きます。苞は葉状で3裂し、小さい果実を包みます。名前の由来は、新芽が赤く、花穂の垂れる様子がしめ縄に垂れる紙（紙垂：しで）に似ていることに由来します。シデ類の中では最も紅葉が鮮やかです。



カツラの黄葉（カツラ科）

カツラの木が落葉すると、周りには甘い匂いが漂います。木の周りにはハート形の落ち葉がたくさんあり、黄色の葉が茶色になり始めると、砂糖をこがしたような香ばしい匂いを出します。



エノキの黄葉（アサ科）

山野の湿った場所に生育する落葉高木で、葉は基部から長く伸びる葉脈が目立ち、先半分には鋸歯があります。昔は一里塚の目印として街道沿いに植えられ、今でもその大木が見られる場所があるそうです。



オオバクロモジの黄葉

（クスノキ科）

本州～九州に分布する雌雄異株の落葉低木です。葉や枝には芳香があるのが特徴です。この時季、葉が鮮やかな黄色に染まります。



イタヤカエデの黄葉

（ムクロジ科）

山地に生える落葉高木で、葉は対生し掌状で5～7に中裂～浅裂し、裂片の先端はとがります。秋に黄色く色づくカエデの代表です。



キタコブシの冬芽

（モクレン科）

枝先に寒さをしのぐため白い毛で覆われた冬芽をつけます。側に葉の冬芽もあります。4月になり暖かくなるとその冬芽から白い6枚の花弁の花が咲きます。



トチノキの冬芽（ムクロジ科）

枝先に茶色の冬芽をつけています。表面は樹脂で覆われ、粘性があり触るとペタペタします。5月に花が咲き、100個以上の花が付く花序をつくりま



ホオノキの冬芽（モクレン科）

灰色のキャップ状の芽鱗に包まれています。5月になるとそれが径20cm以上の白い花になります。萼と花卉の区別は明瞭ではありません。雄しべの花糸は赤く、雌しべは円錐形に集まっています。



マルバマンサクの冬芽

（マンサク科）

丸い部分が花芽、尖っているところが葉芽です。春に先駆けて「まず咲く」のでマンサクといわれていますが、2月頃には花芽が黄色くなり始め、春の訪れを知らせてくれます。



オオヤマザクラの冬芽

（バラ科）

野草園のシンボルのサクラです。今は枝先に、寒さを防ぐために茶色の芽鱗で覆われた冬芽をつけています。茶色の芽鱗にはソメイヨシノのように短毛がなくスベスベしています。



ソメイヨシノの冬芽（バラ科）

エドヒガンとオオシマザクラを交配してつくられたサクラです。冬芽は、芽鱗が8枚程度で毛が密生しています。花芽の方が葉芽よりぷっくりしています。